

6

大林さんの学級では、グループごとにお気に入りの俳句を選んできて、しょうかいし合うことになりました。大林さんのグループでは、次の【俳句】を選び、考えたことを話し合っています。

【大林さんのグループの話し合いの一部】の **ア** ・ **イ** の中に入る最もふさわしい言葉を、あとの1か2のいずれか一つ選んで、その番号をそれぞれ書きましよう。

【俳句】

とつぷり(つ)と後ろ暮(い)れ(い)る(い)し(い)焚火(たきび)かな

松本たかし

【大林さんのグループの話し合いの一部】

大林 「焚火かな」というのは、「焚火だろうか」と疑問に思っているのかな。

池田 それはどうかかな。今までの俳句の中に出てきた「かな」というのは、感動を表すときに使われていたわ。この俳句の「かな」も、「焚火だなあ」と焚火の様子をしみじみ思うという意味と考えたほうがいいんじゃないかしら。

木村 なるほど。そうすると、「とつぷりと後ろ暮れりし」の部分が大切になってくるね。その部分を想像すると、日がすっかりしずんで周りが暗くなっている様子が目にかぶね。

小松 そうね。そのことが「とつぷりと」という言葉に表れているね。ここでは、焚火とその周りの景色けしきとを、 **ア** いるように思うわ。

大林 そう考えてみると、焚火の周りの景色によって、 **イ** がいつそう強調されて、その様子がはっきりと想像されるね。

〜 (話し合いが続く) 〜

イ
2 1
夜の暗やみ 焚火の明るさ

ア
2 1
対比して 分類して